日本YMCA同盟

THE YMCA

The Young Men's Christian Association News

5

No.846 2025

2025年5月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日　第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003　東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640　Fax 03-5367-6641
URL：https://www.ymcajapan.org/
発行人／田口 努　編集人／横山 由利亜

OPINION

変化の時代の「ユースエンパワメント」とは

アジア・太平洋YMCA同盟前総主事
ワイズメンズクラブ国際協会東日本区2024-25年度理事　山田 公平

私がYMCAのスタッフになったのは1979年でした。大学進学への勢いと同時に、YMCAの進学教育（予備校）や専門学校教育も伸びていった時代でした。それから45年。社会はどんどん変化していき、国際化、少子高齢化、そして今日ではさらに速いスピードでデジタル化が進んでいます。変化のスピードは、これまでの経験にない速さです。

このような時代の青少年育成は、教える教育というより、自分で動いて自分の関心分野に気づいたり、新たな喜びを感じる体験をしたり、自分に合った学習方法を開発していくことが求められます。新型コロナの後、私たちの在り方、学び方も変わりました。これまでの考え方や経験値に頼るのではなく、新たな学びを体験によって見つけられるように、世界中のYMCAが工夫をしてユースをサポートし、ユースエンパワメントに力を入れています。

「エンパワメント（empowerment）」とは、もともと「権限を与えること」「力をつけること」といった意味で、昨今では福祉や医療、ビジネスの現場でも使われています。たとえば企業では、上司の指示に従うトップダウンとは逆に、自由度を高めて従業員の主体性や能力を育てることを意味し、社会の変化に備える方策としても活用されているようです。

YMCAの「ユースエンパワメント」とは、若者が自分たちの経験や気づきから、自分の在り方、社会の在り方を考え、自ら変えていく力を身につけることです。そのためには、周りにいる仲間の知恵、新たな情報や経験から学ぶことも求められます。同時に、結果がどうなるか分からなくてもやってみることがユースに新たな気づきと自信を与えることになると考えています。YMCAは創立当初から180年余にわたって、こうした経験によってユースエンパワメントを生み出してきた団体です。

私自身、若い時にアメリカで90歳の一人暮らしの女性に出会ったことが、福祉に関心を持つきっかけになりました。自分の枠を飛び出すような活動から新たな関心が生まれ、もっとやってみたいという意欲となり、これまでとは違う自分に出会う経験をしました。自ら行動する中で試行錯誤し、人とつながり、自信や喜びを得て、生きがいを見出していく。若い人たちにこういった体験の機会を作ることが、青少年団体だけでなく地域社会の役割ではないか。このような思いが、「Y's ×SDGs ユースアクション」（▼2-3面特集）を生み出す動機になりました。

2022年に始められた「ユースアクション」は、SDGsに掲げられた社会的課題に取り組もうとするユースグループを、YMCAとワイズメンズクラブが助成するプロジェクトです。YMCA内外の高校生や大学生によるグループが応募し、社会課題に目を向けて動き出し、これまでとは違う喜びや気づきを体験しています。まさにユースエンパワメントにつながる機会であり、このような体験こそが未来の社会を創るのではないかという声が、関係した大人たちからも聞かれました。若者たちに"投資"し、若者たちの本当の成長を生み出すと、思いもよらない大きな変化を生み出す力になることは、YMCAの歴史が証明するところです。YMCAもワイズメンズクラブも、永年にわたる知見を活かし、今こそ未来社会の開拓者となるユースをエンパワーしていくことが期待されています。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。https://www.ymcajapan.org/

中面へ

若者のアイデアで 地域社会を変えていく

Y's×SDGs Youth Action2024 10グループが実践

持続可能な開発目標（SDGs）に取り組む若者たちをサポートすることで、地域社会を変えていこう――。2022年、YMCAとワイズメンズクラブは「Y's×SDGs Youth Action」を開始し、若い世代の企画を最大20万円の助成金等によってサポートしています。昨年3月には2期目の公募を行って10チームを選出。選ばれたチームは一年間、地域のYMCAとワイズメンの協力を得ながら取り組みを続け、2025年3月16日に実施報告会を行いました。

各チームの発表は、こちらのサイトでご覧いただけます。
▸https://sites.google.com/japanymca.org/youth-action2022/

ユースアクション報告会を終えて

ワイズメンズクラブ国際協会
2024-2025年度西日本区理事
鵜丹谷（うにや） 剛（つよし）

2022年に初めて当プログラムを知ったとき、YMCAとワイズメンズクラブがユースに伴走しながら実施する活動として、大変意義あるプログラムだと思いました。そして、第2回となる「Y's×SDGs Youth Action2024」を私自身も担当する立場となり、さらなる広がりを願い開始しました。

3月に行われた「Y's×SDGs Youth Action2024」の活動報告会では、10チームがそれぞれ今日的な社会課題へトライした活動の成果が発表され、本当に素晴らしいものでした。想定外の課題に遭遇しながらも、チーム一丸で社会とつながりチャレンジした経験は、活動を通じての地域・社会貢献に加え、メンバー皆さんの大きな自己成長と練達を生み出したことと確信しました。

私自身、神戸YMCA余島キャンプのユースリーダー経験者として、YMCAにおける青少年育成事業の社会的意義と人的成長への影響性を何より体感しています。その上で、我々の時代と比べ、より今日的な形へと幅の広がった活動の一つと感じています。

若者の社会とのつながりが希薄といわれがちの昨今です。しかし、各チームが異なるテーマを持ちながらも、課題解決に向けメンバー同士が連携し、様々な見解の違いをうまく乗り越えながら、地域や人々とつながっていくことの重要性を共通に感じ取ったのではないでしょうか。いわば、これからの社会生活を送る上での大切な人的要素を、このプログラムを通じて体感できたのではないかと思います。

分科会ではプロジェクト継続への展望や我々ワイズメンズクラブへの期待も伺いました。「ユースから世界を変えたい」との大きな夢の実現に向け、我々も今後の可能性について、引き続き検討をしていく次第です。そして、今回関わった皆さんが、チームを越えてさらにつながりを膨らませながら、未来のチェンジメーカーとして社会のリーダーとなっていただくことを切に期待いたします。

ワイズメンズクラブとは

YMCAをサポートする国際的な奉仕団体で、現在は世界約75カ国で3万人が活動しています。日本では北海道から沖縄まで約125のクラブがあり、各地域のYMCAと共にさまざまな地域活動を行っています。青少年の育成にも力を入れており、海外交流事業「ユースコンボケーション」など、古くから多数の研修機会も提供しています。

小さなアトリエプロジェクト
>>>YMCAクローバークラブ川越（埼玉YMCA）

夏休みや冬休みの自由研究、宿題をサポートするプロジェクト。絵画講師によるポスター制作なども行う「アトリエ」として、また子どもたちの居場所、中高生の交流の場として計7回実施した。商店街のシェアスペースを会場としたことで、地域の高齢者も来場。教育格差、商店街の過疎化、まちづくりの課題を解決するプロジェクトとして継続が期待されている。

グッズドライブ
>>>札幌YMCA ユースボランティアリーダー会

子どもの成長は早く、衣服はすぐに小さくなってしまう。バザーなどでリサイクルする動きもあるが、もっと気軽に必要な方に繋げたいと、YMCAで定期的に衣服を交換する「グッズドライブ」を企画した。小さくなった衣服を集め、欲しい服と交換するイベントで、12月には子育てサロンや縁日などと同時開催したところ約300人が来場。北海道新聞社なども取材に訪れた。

留学生もみんなと共に～ >>>Youth for Noto（長野県）
能登半島地震復興ワークキャンプ

能登半島地震後、被災地のために何かできることはないか？と信州大学の留学生たちが企画。松本・長野・富山ワイズメンズクラブと共にフリーマーケットを行って資金を集め、8月と9月に輪島市穴水町でワークキャンプを実施。アルゼンチン、アメリカ、タイ、中国などの留学生のほか日本人大学生も参加した。参加後は大学などで報告会を行い、被災地の状況を発信した。

落書き消去活動
>>>YMCAせとうちリーダー会

街の落書きを放置していると、より大きな犯罪へとつながっていく。落書き消去活動は「悪いことを見逃さない人たちがいる」というメッセージにもなり、犯罪抑止になる――。そんな調査結果があることから、落書きを消そうと企画。街中を調べると約100カ所の落書きを発見。11月にワイズメンと学生リーダー約80人で落書き消去活動を行った。今後も開催の予定。

子どもの人権プロジェクト
>>>盛岡YMCA 子どもの人権チーム

岩手県弁護士会の協力をきっかけに、人権の大切さを子どもたちに楽しく伝えることで、学校の「いじめゼロ」を目指そうと3年前から活動。ボランティア自身の人権理解を深めることも目的としている。1年目は人権標語を募り、2年目は県内の高校生に絵を描いてもらい、今年ついに「人権かるた」が完成。今後は県内の小学生への発信に力を入れていく。

外国にルーツのある子どもたちの体験活動
>>>みっくす！（東京YMCA）

言葉の壁、制度の壁、誤解や偏見といった心の壁など、さまざまな課題をかかえる「外国にルーツのある子どもたち」に、2カ月に一度、楽しい遠足の機会を提供する。楽しみながら同じ境遇の仲間とのつながりを作ることを目的として開始した。科学館、水族館、防災館のほか、川越散策では日本文化体験もできた。次年度からは東京YMCAの事業として継続の予定。

ぷらっと“Canp”
>>>熊本YMCA ぷらっとほーむリーダー会

全国の不登校児童数は34万6千人余。中には自信を失い、苦しんでいる子どもも多いことから「ぷらっとCanp」を企画。月に一度のデイキャンプで、できる（＝Can）体験を積み重ね、自己肯定感や他者への信頼を高めることを目指した。料理作りや熊本城探検など、活動のたびに子どもたちの表情が明るくなってきた。今後も「心の安全地帯」として継続したい。

ユースが発見！ みんなでつくるよりどころ
>>>山梨YMCA ユースリーダー会

子どもの貧困問題について私たちができることは何か――。「心、時間、関係性の貧困」に注目した私たちは、児童養護施設の子どもたちを山梨YMCAのキャンプ場「銀河鉄道の森」に招待しデイキャンプを開催した。心と心の交わりを生み、ちょっと年上のリーダーと楽しいひとときを過ごす。ユースだからこそできるアクションをこれからも起こしていきたい。

絆を紡ぎ続ける、居場所を目指して
>>>国際ボランティアサークルひつじぐも

外国籍の方が多い川口市で、より良い多文化共生社会を実現するにはどうしたらいいか。まずは楽しみながら各国を知ろうと、外国の遊びが体験できるイベントを企画した。イオンモール川口に協力を仰ぎ、モール内に10月、韓国、中国、ベトナム、フィリピンの遊び体験ブースを設置。789人が来場した。今後も「学生から世界を変えていく」を目指して継続したい。

Youth Peace Seminar
>>>広島YMCA 国際ユースリーダー

「世界中に友だちを創り、平和を築いていこう」と、ハノーバー YMCAとの交流や、8月の「ユースピースセミナー（YPS）」の開催など、平和活動に取り組んでいる。YPS2024には国内外から36人が参加。被爆者証言や原爆資料館見学で学びを深め、グループでの話し合いなどで交流を深めた。2月には京都大学YMCAと勉強会も開催。今後も人の絆を強め、平和を築きたい。

海外のYMCAでは

●グローバル・ユース・モビライゼーション：Global Youth Mobilization（GYM）

SDGsに取り組む若者をサポートするプロジェクトは、海外でも行われています。「GYM」はコロナ禍を機に2020年から始められた助成プロジェクトで、YMCAだけでなくYWCA、国際赤十字、スカウト協会など、「ビッグ・シックス」と呼ばれる世界最大規模の青少年団体とEU国際パートナーシップが共に推進。約120の途上国のユースを対象に企画を募って助成しています。これまでに470のプロジェクトに500万ドルを助成。各地域社会に大きなインパクトをもたらしています。

GYMの事例

ザンビア｜有機農業トレーニング

自然への負荷が少ない有機農法を地域の若者に伝えるため、巡回型の「エコロジー農業スクール」を実施。各地でワークショップやブートキャンプを行い、土壌の管理と安定した食料の収穫ができる方法を伝えています。

フィリピン｜学習サポート

低所得層の子どもたちを対象とした学習支援サービス。新型コロナの影響もあり、基礎的な読み書きができない子どもが増えたことから開始した。農村部など遠隔地には、週末に訪問して個別指導も行っています。

●変革者を育てる研修「世界YMCAチェンジ・エージェント」

社会課題に取り組むユースリーダーを育てるため、世界YMCAは2013年から研修プログラムを行っています。18歳～30歳未満でYMCA経験3年以上の人が対象で、毎回世界中から希望者を募って開催されています。受講期間は約1年半。オンラインでの講義やディスカッションのほか対面でのイベントも実施。実践力のあるユースリーダーを養成しています。これまでに67の国と地域から約900人が卒業。日本からは15人が受講し、修了後もそれぞれの地域課題に取り組んでいます。

チェンジ・エージェント卒業生によるプロジェクト例

シンガポール｜メンタルヘルス・ワークショップ

メンタルヘルスに悩む若者が増えている中、同様の困難を乗り越えてきた著名人などを講師にワークショップを開催。企業の後援も得て250人が参加。友情や社会的ネットワークの重要性も学びました。

トーゴ｜YMCAの敷地内に植林

環境保全のため140万ヘクタールの森林再生が必要と言われるトーゴ。その達成に協力しようと、ユースたちはYMCAの敷地内に植樹を始めた。植えた木にはボランティアの名前をつけ、大切に育てています。

大阪YMCA 新規プログラム「きらり☆ことばプラス」
～視覚障がい者と晴眼者が共に織りなす価値（プラス）～

たとえば一枚の写真の内容やイメージを視覚障がい者に言葉で伝えてみる――。大阪YMCAでは2024年度支援金プログラムとして、こんなコミュニケーション研修を開始しました。

考案したのは、大手銀行に勤める岡田太丞（おかだ たいすけ）さん。若い頃、交通事故で両目を失明され、苦難の中から復職し、2017年に「視覚障害者就労相談人材バンク」を設立。視覚障がい者の就労支援に取り組む中で、このプログラムを創案されました。

これに共感した大阪YMCAは、岡田さんとその支援者の方々と共に視覚障がい者が社会で活躍する機会をつくるプロジェクト「きらり☆ことばプラス」として、現在三つの活動に取り組んでいます。まずは研修を実施する「ブラインドメンター」の養成講座。すでに10名の視覚障がい者が修了しました。二つ目は、企業や教育機関での表現･コミュニケーション研修の実施です。朝日放送テレビ株式会社でのアナウンサー研修、株式会社赤ちゃん本舗での社内研修のほか、YMCA内でも高校生や小学生が受講しました。参加者からは「普段見落としていた視点に気づけた」などの声が寄せられ、定期的に実施を計画する企業もあります。三つ目は、ボランティアの参加促進。メンターの歩行介助だけでなく、交流を通じて理解を深める機会も持ったところ、あるボランティアの方は「感謝あふれる素晴らしい経験」と語ってくださいました。

これらの取り組みは朝日新聞やNHKなどでも取り上げられています。

単なる支援対象ではなく、視覚障がい者と晴眼者が織りなす“きらり”と光る価値を共にプラスに享受する、まさに「ポジティブネット」を目指すYMCAのビジョンに適う取り組みだと感じています。2025年度はさらに研修の拡充と支援体制の強化を進める計画です。

大阪YMCA　船戸 輝久

YMCA東山荘
部分リニューアルオープン

今年創立110周年を迎える「YMCA東山荘」が、一部施設の改修工事を行ってリニューアルしました。富士山のふもと御殿場市にある「YMCA東山荘」は、約2万坪の敷地内に宿泊棟やホール、体育館など約10の建物が点在する大型の宿泊・研修施設です。今回リニューアルしたのは、この内1982年竣工の「6号館」と、1975年建設の「黙想館」。12月末から約3カ月間にわたる工事で、外装も内装も新しくなりました。特に学校を中心に利用されている6号館は、客室内のトイレや洗面所も刷新。「明るくて使いやすくなった」と好評です。

学校や企業、教会やサークルなど、YMCA内外のさまざまな方にご利用いただいているYMCA東山荘。多くの方が学び、かけがえのない体験ができる場として、環境に配慮した、快適な施設を目指してまいります。皆さまのご利用をお待ちしています。

YMCA東山荘所長　森田 義彦

新しくなった6号館

それぞれの視点をみんなの視点に
とちぎYMCA「多文化防災まちあるき」

3月23日、とちぎYMCAが指定管理者として運営する宇都宮市青少年活動センターの主催事業として、「多文化防災まちあるき」を実施しました。ベトナム、韓国、日本の3カ国から、高齢福祉、障がい者福祉、地域防災、語学教育、認知症サポートなどの専門領域を持つ9人が集い、想定した災害状況をもとに、ハザードマップを確認しながら、「いつ・どこに・どのように」避難するかを確認しながら街を歩きました。

地域の中には、いろいろな文化を持つ人が住んでいます。外国にルーツのある人、ご高齢の方、乳幼児親子、車いすの方など、その一人ひとりの立場に立つと普段は困難に思わないことがいかに困難であるか、はたまた緊急時にはどのようにその困難さが作用してくるのか、今回のプログラムを通して想像しました。

実際にまち歩きをしていく中で「このルートでの避難は高齢者や車いすの方には厳しい」「二次災害に遭う可能性がある」「一番近い避難所の開設順位が下位だった」「海外から日本に来た人は土地勘がなく避難するルート選択が難しい」など、文化や生活の背景によって避難するタイミングやルート、場所が変化してくることがわかりました。

同時に私たちの価値認識は生まれ育った文化によって自然と定められていることも実感しました。個別の背景とニーズをつかむためには、自文化を中心に据える同心円的な視座の意識化と克服を進め、多文化な視座と、グローバルな視座を育んでいくことが重要だとわかりました。今後もこのようなプログラムを通して、誰一人取り残さないコミュニティの形成を目指していきたいと思います。

とちぎYMCA　濱塚 牧人

YMCAを退職・卒業された方は
「アルムナイ コミュニティ」にご登録を

“卒業”しても、YMCAとつながっていてほしい。

そんな願いから4月、「YMCAアルムナイ コミュニティ」がスタートしました。「アルムナイ」とは、卒業生や同窓生を意味する言葉で、今回はYMCAを退職した方、YMCAの学校を卒業した方、ボランティアリーダーをしていた方を対象としています。

ご登録いただいた方には定期的にメールを配信し、全国YMCAの近況やイベント情報、採用情報などをお届けしてまいります。また人材不足の時代、「アルムナイ採用」として再雇用につながっていくことも期待されています。まだまだ出来立ての制度ですが、ぜひご登録の上、長い人生のライフステージに合わせて末永くYMCA運動に関わっていただければ幸いです。

詳細は下記サイト／二次元コードから

https://www.ymcajapan.org/saiyo_list/alumni/